

# 行政視察報告書

令和元年11月1日

長浜市議会議員 西邑 定幸 様

長浜市議会議員 伊藤喜久雄



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 令和元年度 会派「清流」行政視察研修
2. 視察期間 令和元年度10月21日(月)～23日(水)
3. 視察場所及び目的
  - ①北海道家庭医療学センター(家庭医療について)
  - ②北海道がんセンター(放射線治療でできること)
  - ③夕張市(映画による町おこしについて)
  - ④芽室町(コンビニ、小さな拠点づくりについて)
  - ⑤根室町議会(芽室町議会の取り組みについて)

## 4. 調査内容感想等

### ※視察内容

#### ①医療法人 北海道家庭医療学センター

#### ★家庭医療について

#### ・家庭医とは

～疾病臓器・患者の性別・年齢・その他医学的技能の専門性にとらわれず、

患者並びに地域住民の健康問題を幅広く担当する医療分野。家庭医と総

合診療医は同一に表現されるケースが多いが、家庭医は診療所でより地

域住民と近いフィールドで活躍し、総合診療医は病院の総合診療科で活

躍するなど、フィールドが異なる。

#### ・地域住民の1か月の医療サービス利用

～1,000人の内、800人が有症状で、327人が受診検討、その内217人が受診され、病院受診が21人、8人が病院入院、1人が大学病院入院で家庭の役割は、今後増大する。

・日本の医療の課題と、家庭医療

～癌患者増加による在宅ホスピスの拡大、超高齢化社会での高齢者ケア拡大、世代の変化による個別的ケアのニーズ拡大、急性期病院の高度化・専門化による機能分化拡大、郡部や僻地の医師不足拡大により、家庭医療の役割が拡大している。

・国の医療改革とゆるやかに連携

～地域の診療所が身近な健康問題に対応する「かかりつけ医機能」を發揮して、外来医療・在宅医療・救急医療を担い、日常生活圏域で医療・介護・福祉がある程度完結することを大前提とした制度設計が必要。

②北海道がんセンター

★放射線治療でできること

・日本におけるがん医療は、「手術」、「抗がん剤」、「放射線」の三大治療法があるが、放射線治療の評価は不当に低い。放射線治療は、副作用が比較的少なく、高い生活の質が得られる治療であるが、日本ではその認知度は不十分である。

最近では、放射線治療の進歩は目覚ましく、定位照射、強度変調放射線治療、

或いは粒子線治療＋化学療法によって、様々ながんが完治するようになってきた。

因みに、がん治療における放射線の利用率は欧米では60～65%、日本では25%程度。放射線治療についての情報不足も深刻で、「市民のためのがん治療の会」も立上げ、約60人の放射線専門医の代表としてセカンドオピニオンに応じておられる。

西尾先生（名誉院長）は、日本放射線腫瘍学会の理事であり、日本の放射線治療の重鎮。

### ③夕張市（映画による町おこしについて）

・往時に12万人いた人口が1万人をきっている夕張市。平成7年に、国の管理下で再建を目指す「財政再建団体」に指定。11年に都庁職員だった鈴木直道氏（現北海道知事）を先頭に地域再生に本腰を入れる。竹下内閣の時のふるさと創生1億円で、夕張市は映画祭を開き、ハリウッドスターを呼ぶ。今では、市民自ら6000万近くを集めている。

昭和52年公開、第1回日本アカデミー賞最優秀作品賞をはじめ数々の国内映画賞を受賞した作品「幸福の黄色いハンカチ」の感動のラストシーンロケ現場である「幸福の黄色いハンカチ想いでひろば」は、連日大勢の観光客の姿がある。平成29年に全面改装され、オリジナル珈琲を飲みながら、「幸福」についてゆっくりと考え、語れるモダンなカフェも売りのひとつ。NPO法人ゆうばりファンタの活動を市内外の人が支え、地域

おこし、まちづくりのシンボルとなっている。

④芽室町NPO法人上美生（コンビニ、小さな拠点づくりについて）

- ・JA芽室上美生店の閉鎖（30年3月）がきっかけとなり、住民アンケートの実施や意見交換会の開催などを経て、特定非営利活動法人「上美生」を30年3月13日設立（寄附金約500万円、会員154人）。

少子高齢化の中で、永続的な集落維持、地域住民が安心して暮らし続ける環境の整備、持続可能な営農支援、子どもの健全育成、高齢者福祉の推進、地域経済の活性化と移住・定住・観光振興を図りながら、様々な地域課題に住民一丸となった取り組みが進められている。

活動は小売店舗の運営を核としながら行われており、小売店（みんなのお店「KAMIBI」）のメインの仕入れ先はヤマザキ。生鮮野菜は、地元農家の直販「ほしぞら市場」で販売、弁当配達やイベントへの食材供給、葬儀の取りまとめ、ゆうパック取次など様々なサービスが展開。

このようなスタイルは、上美生地区協議会と「上美生のお店を考える会」の活動連携が実を結んだもので、現在、スタンド経営や地域コミュニティの場づくりとしてのフリースペースが開設されており、地域の「小さな拠点」が誕生している。

⑤芽室町議会（芽室町議会の取り組みについて）

- ・「住民に開かれ、分かりやすく、行動する議会」を目指して、「ネットワー

ク型議会」を構築。

「ネットワーク型議会」は、北大・早大、議会モニター、諮問会議、報道機関、町民（SNS）、東京財団、議長会、議会サポーターで構成され、平成12年に議会活性化計画を策定。その後、議員研修計画の策定や、議会基本条例の制定（平成25年4月）、通年議会制への移行、議会だよりの通年発行、議会モニターの設置、議会サポーターの設置、議会ICT計画の策定、各委員会ミーティングの実施など、先進的な取り組みを実施される。

議員は16人で、平均2.7期、平均年齢は57.3歳。女性議員は3人（19%）。

当局原案否決が5件、議員提出修正案可決3件で、二元代表制としての議会機能を発揮されている。（会派なし、政務活動費「ゼロ」）

全国議会改革ランキング第1位（2014年～2018年）、マニフェスト大賞最優秀成果賞（2014年）など外部評価も高い。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

人口減少、超高齢化が進む中で、地域医療を支える「家庭医」の存在は大きく、今後の地域医療環境の構築の参考としたい。

放射線によるがん治療にあたっては、日本の放射線治療の第一人者である西尾先生から直接お話を聞くことができ、改めて放射線治療のメリットを感じた。放射線治療に対する市民への情報提供の機会の必要性を感じた。

芽室町NPO法人上美生の「コンビニ、小さな拠点づくりについて」の

取り組みは、永続的な集落維持と、地域住民が安心して暮らし続ける環境づくりの見本として、今後、長浜市での地域づくり活動の参考としていきたい。

芽室町議会の先進的な取り組みでは、「政策形成サイクルの導入」や「自治基本条例・議会基本条例・議員倫理条例の議員自己評価」など、大いに参考となった。

議員16名全員が「チーム議会」として活動されていることが、議会改革の推進力になっていることを直接、肌で感じ取ることができ、今後の議会運営議員活動に活かしていきたい。